

# 災救通信

平成27年  
8月7日  
第6号

発行

天理教  
災害救援  
ひのきしん隊  
北海道教区隊

逐次発行

## 北海道 ブロック 訓練 特集

災救隊では本部主催の『北海道ブロック訓練』を平成27年6月29日～7月1日にかけて鹿追町で実施した。訓練には本部から長野吉晴本部長をはじめ24人が来道し、道内全27支部より隊員163人の合計187人が参加した。作業は然別峡かんの温泉周辺の遊歩道整備と同町瓜幕地区の河川整備を刈払い機やチェーンソーを用いて行った。このほか、宿营地周辺でも公民館周辺の整備や外部のモルタル補修なども行った。この訓練による総草刈り面積は9千195平方メートルで、伐採した雑木は144本に上った。



結隊式に整列した隊員。



教区隊の教務支庁出発時の参拝。



おぢばを出発する本部隊。

6月25日15時 災救隊本部にて奥村教区隊長、今井副隊長等が最終の会議に出席。その後、本部神殿南礼拝場へ移動し、長野災救隊本部長はじめ、本部スタッフ、西垣教区長、北海道スタッフ等30名がブロック訓練の無事を願うおととめをつとめる。

6月26日 御本部6月祭典がつとめられたこの日、災救隊本部より資材、物品を満載した4トロングパネルトラックが北海道への航路である舞鶴へ出発。日付が変わった頃、舞鶴港より一路小樽へとフェリーが出航した。

また、この日、北海道鹿追町では、十勝支部の方々により燻煙殺虫作業など受け入れ準備が、宿营地の北鹿追公民館で開始される。

6月27日午前 北海道教務支庁では教区隊の準備したレンタカーのマイクロバス2台、2トパネルトラック2台に物品、資材などの積み込みが行われ、宿营地へ向け各車輛が出発した。

## ブロック訓練 ドキュメント

6月27日午後になると宿営地に到着した教区スタッフは、早速資材テント2張りを設営。そのテントに次々と物品を降ろして一時置きをした。また、同時に宿営地の清掃や宿営準備が行われた。更にまた、期間中に試用する仮設トイレ8基も宿営地に搬入されてきた。大型ユニック車から順に設置場所へと仮設トイレが降ろされ、宿営地の雰囲気徐徐に現れてきた。

一方おぢばでは、本部スタッフが関西空港へ向かい、夕方発のジェットスター便で千歳へと降り立った。空港で出迎えた教区スタッフの重鎮、小杉隊長補等と共に教務支庁へと向かったのである。教区到着は22時を過ぎていた。



本部隊と教区隊が協力し、次々と物品を降ろす。

## ブロック訓練ドキュメント

6月28日朝 教務支庁に宿泊した本部スタッフは準備したマイクロバスに乗り込み鹿追町へ出発。一行は9時半には宿営地へ到着した。

一方の教区隊は急きよ町のイベントへ参加することとなる。そのイベントとは、てるてる坊主をたくさん作り（主催者側で事前に1万個作成したもの）、会場となった十勝とくさ牧場（宿営地より7分）に張り巡らされたひもに飾るというもの。『ギネスに挑戦』ということで大量のてるてる坊主を飾り付けるお手伝いを教区スタッフが1時間ほど行った。後に調べてみるとこの日5千405個のてるてる坊主が飾られたという。



てるてる大作戦。

6月28日午後からは本格的な宿営地での受け入れ準備が進められ、訓練本部テント、厨房テント、受付テント、資材テント等が次々と設営された。また、特殊工事として電柱から引き込みした配電盤から、本部電気課から来られたスタッフが宿営地の各所に電力の供給を行ったり、厨房テントでは本部水道課より来られたスタッフが、上下水道の仮設工事を行い、まるでおぢばにいるような雰囲気の中、大勢の隊員を受け入れる設備が整えられていった。

6月29日朝から各職掌ごとで細部にわたって準備が進められる。作業係、車輛係、通信係、救護係は宿営地から30分ほど離れた同町郊外の、かんの温泉周辺遊歩道整備の現場を確認。作業域や作業法を町の担当者から指示を受けたり、現場までのルート確認や携帯電話がまったく通じないこのエリアでの衛星電話の通信状況を確認した。

また、宿営地では訓練本部テント内に無線設備、放送設備、車輛管理ボードなどが設けられたり、受付テントでは教区庶務係等が受付表や配布するヘルメットと販売したアポロキャップやTシャツの仕分け作業に大忙しであった。



3×5軒テントに床板を作り、厨房テントに。

6月29日午後になると各地から隊員達が次々と現地入りし始めてきた。想像以上に受付周辺は人で溢れかえり、支部隊車輛の誘導や、個人装備の搬入など賑やかなことであった。午後2時、抜けるような十勝晴れの下、結隊式を前にセレモニー広場にて規律訓練が行われた。規律訓練を行ったのは災害隊本部茶谷主事（泉大教会長）である。整列、点呼、式要領などの指導を受けた。その後、準備が整い結隊式を行う。来賓として町より小林 潤教育長、西科伸之商工観光課長、對馬 諒課員が列席。式では長野本部長、西垣教区長、小林教育長よりあいさつがあった。続くオリエンテーションでは奥村教区隊長よりあいさつがあり、本部、教区各スタッフの紹介と班長6名の任命が行われた。

# いよいよ訓練開始



慌ただしい受付テントの様子。  
食事の数は？Tシャツは？記念品は？  
だいじょうぶ？ ノブ！ ニョ！



西垣定洋教区長先生。  
現場も視察いただいた。



小森副本部長に案内される小林教育長。

オリエンテーション後、各現場（初日は2カ所）に分かれ、早速作業が開始された。宿営地から程無い所にある、瓜幕現場ではかんがい用水路の周りの雑木をチェーンソーで伐採しそれを集積した。また、周辺を刈払い機を使用して草刈りも行った。宿営地現場では、この日から隊員の宿泊に使用する5人用テント30張りの設営が開始された。順調に設営が進んでいくかと思いきや、外国製のこのテントはポールとシートの長さがずれていたりと、固定用のペグを打つハンマーが足りなかったりと、ドタバタ続き。予定の時間を過ぎても完成出来ない。そうしたおかげで様々な教訓を得ることが出来たと言えよう。



テント設営は時間を要した。お～い、寝れるかい。

こうして訓練初日も暮れて行ったが、宿営地の北鹿追公民館に隣接する体育館を食堂として使用し、夜はそこを夕礼の場として利用させていただいた。夕礼後、本部で製作した、「刈払い使用の危険」を学ぶビデオを上映したが、朝からのバタバタ続きで音声の出が相当に悪い。教区スタッフは汗だくで改善の努力を行ったが、本部長の『しっかりせい！』という声なき声が聞こえた感じがしたようで、後半の上映は翌日に持ち越しとなった。

# 6月30日 終日訓練

6月30日 宿营地周辺は霧が立ち込み肌寒い朝を迎える。セレモニー広場にて朝礼を行う。出勤時間が近づいてくると弱い霧雨が降ってきた。それぞれに雨カッパなどを準備してマイクロバス3台のほかワゴン車数台で現場へと向かった。宿营地から一番遠いかんの現場へは3個班が向かい、遊歩道内にある雑木伐採と草刈りを行った。しかしながら、予定の遊歩道コースが直前になってから大幅に短縮され、かんの現場は午前を持って作業を終えた。

また、前日より作業を行っている瓜幕地区の用水路脇の雑木除去作業と草刈り作業は本格的に朝から作業が進められた。

昼近くになるとあいにく雨足が強くなり、作業する隊員達の足下へも影響が出始めたり、隊服にも汚れが付いて気持ちが少し落ち込み午前の作業を終えた。



レジェンド市川、さすがの存在感。  
かんの現場にて。



レジェンドまでもう一息  
堤隊長補と荒木隊長補



すぐにでも作業に取りかかりたいところだが、呼吸を整えるように、高坂副隊長補よりチェーンソーなどの取扱説明がなされた。仕切りは大切な時間だ。



装備と物品を確認して現場へ出発。あっタオル忘れた！

6月30日午後からは午前中で現場を終えた、かんの現場チーム3個班が加勢してくれることになる。そのおかげにより、一同の気持ちは高まり一気に作業が進んでいった。しかし反面、こうした裏側で作業係は急に人員が増えたことにより対応に戸惑いを見せる。そうした現場の状態を振り返り、担当者は大いに反省を深めていた。

災害隊では安全管理、統率、指示、確認、報告は本当に重要なことであり、作業成果よりもこうした事項を確実にを行うことが求められている。良い経験となった。



心に残る言葉。



心に残るおもてなし料理の数々。

さて、終日の作業を終えると、有難くも天然温泉で隊員達は一日の汗を流すこととなる。然別湖畔温泉のホテル福原、ホテル風水と新得町の湯宿くったりレイクインで、一時の温泉旅行気分を味わせていただいた。

宿営地に戻ると夕礼がつとめられ、続いて佐藤教区副隊長から、これまでの災救援活動を通しての感動が語られた。「この十勝平野で極寒や開墾の苦勞に耐え、教祖の教えを広められた先人達の思いを感じる時胸が熱くなる。こうした感激を各地での励みにしていきたい」と挨拶があった。



作業の疲れを然別湖畔温泉『ホテル福原』で流す。至福のひとつ…タオル忘れて、手だけで洗った人もいますが。

## 感謝の夕食会

この夜の夕食は、遙々おちばからお越しいただいた本部隊への感謝とお礼の気持ちを含めて、教区隊主催の夕食会が持たれた。食事準備にあたっては松下敏孝教区主事を芯に、中津川 悟（和食） 甘朝平（中華） 両シェフが腕を振るう中、婦人会十勝支部（郷司ひろみ主任）からも大勢ひのきしんに携わっていただき、食事係一同のまごころこもった料理が振る舞われた。

また、お世話になった公民館長様、地区長様にも来賓としてご出席いただいた。時間の経過と共にマイクを持って勝手に歌う人や元本物応援団長エール合戦、青年会による芸出しと緑化動員のお願い、板倉副本部長による連続歩調からの青年会歌合唱等々で大いに盛り上がった。



瓜幕現場。雑木集積は一本一本拾う正に手作業、尊い。雨で足下もぬかるみ刈払い機も大変だ。

# 最終日

7月1日 薄曇りの朝を迎える。この日もセ  
レモニー広場で朝礼をつとめた。朝礼後、テント  
サイト側より全体写真を撮影。なぜかヘルメット  
を着用する。ありがたいことに昨夜の豪華ディナ  
ーが朝からいただけ。

朝食後、私物などを支部隊の各車輛に片付け最  
終の作業に入る。2個班は瓜幕現場の雑木除去、  
草刈り作業の仕上げに向かった。残りの4個班は  
宿営地の撤収作業に取りかかる。まずは5人用テ  
ントの撤収作業。時折、小雨が降って、汚れを拭  
き取ったり畳んだりの収納作業も難航する。同時  
に、訓練本部、受付、資材、厨房の各テントの物  
品を少しずつ車輛へ積み込みを開始した。



瓜幕現場。奥の森がビフォー。手前の川？がアフター。



毎晩のスタッフ会議。鋭くドキドキします。



本部スタッフのおかげでおぢばのようです。



整然と並んだテント群。朝の冷え込み防止に毛布等を持参。

テンプが良く撤収がどんどん進んだようだが、ここ  
にも落とし穴があった。降雨による焦り、積み込み  
車輛の多さ、隊員への指示不足、指令の甘さ等々が  
重なり、反省点が多く生まれることとなる。  
あれほど準備にはリストを作り確認を何度もして  
積み込んだのに、積み込み撤収になると様々な心理  
が混ざり合う。「早く終わらせよう、濡れるからパ  
ツパと積んでしまおう、誰か確認してくれるべ、帰  
ってからチェックしたらいい」等々。  
トラックの片隅にチェックリストがぼつんと置か  
れたままであった。

撤収作業は予定通り進められ、12時からの解散式に向け、公民館内の掃除が徹底され準備が整えられた。

解散式には吉田弘志鹿追町長が出席下さり、一同に謝辞を述べられた。また、教区主事、当該支部長でもある可児孝之主事よりもお礼の言葉をいただいた。解散式の最後には、期間中の食事の世話取りをしていただいた、婦人会十勝支部のみなさんを代表して郷司ひろみ主任に花束が手渡された。

解散式を終え、長いようで短い日程も無事終了し各支部隊は支部へと戻っていった。更に本部隊、教区隊も最終撤収も終わっておちばと教務支庁へと帰っていった。

## 解散式



婦人会の方も撤収作業をお手伝い。有難い。



# ALBUM



教区隊は教務支庁に到着後すぐに物品を倉庫へ収納し、レンタカーを返却して解散となった。翌日からは早速、物品整理、テナントの乾燥収納や事務処理等の残務に本部隊、教区隊共に追われている。



瓜幕地区の雑木がきれいに伐採され、一本一本手作業で集積された。隊員の真実の結晶である。

## 御礼ごとめ

なお、7月25日16時からはこの度の『災害救援ひのきしん隊 北海道ブロック訓練』の御礼ごとめを本部南札拝殿にて、長野本部長はじめ副本部長、本部スタッフ、西垣教区長、奥村教区隊長、今井副隊長、教区スタッフでつとめさせていただきました。

このブロック訓練を通し、災救援としての基本精神である災害が起きないような日常ひのきしんの在り方と、組織としての在り方である、安全、確認、報告、連絡、指示、団結、管理、責任、相談の重要性をたつぷりと学ばせていただいた。今後とも話し合いを重ね、親神様、教祖に勇んでいただけるよう、魅力ある災救援を目指して行きたい。

# ブロック訓練参加者数

参加者総数 187名

本部	24
函館	4
渡島	7
八雲	3
倶知安	5
余市	4
小樽	4
札幌中南	5
札幌白豊	5
札幌北西	2

札幌東	7
千恵広	5
苫小牧	3
室蘭	3
日高	5
南空知	9
空知	6
天龍	8
旭川	6
上川	3

富良野	4
十勝	12
釧根	4
網走	3
北見	4
紋別	4
天塩	4
宗谷	6
婦人会	16
その他	12

## ブロック訓練への差し入れ

- ・北海道教区 教区長 西垣定洋 様
- ・鹿追町 町長 吉田弘志 様
- ・鹿追観光協会 会長 坂本昌彦 様
- ・鹿追町 様
- ・JAL 札幌法人グループ 浜田 様
- ・天龍支部 様
- ・祝梅分教会 様
- ・北鷹分教会 様
- ・雨龍大教会 金谷幸子 様
- ・栗山分教会 様
- ・幾寅分教会 様
- ・三沢分教会 様
- ・北治分教会 様
- ・頼城分教会 三河吉太朗 様
- ・六華分教会 中島優子 様
- ・十勝支部 甘朝平 様
- ・日高支部 孫入道寿 様



## お礼の言葉

訓練実施にあたり参加下さいました隊員のみなさま方には心より御礼を申し上げます。更には当該支部である可児十勝支部長先生をはじめ、郷司婦人会主任先生、小林支部隊長、また、鹿追町との関わり総てと早期より訓練の上にお力添えをいただきました鹿追分教会長 伊藤忠義先生には厚く御礼を申し上げます。また、訓練に際しましては各所よりたくさんの方の差し入れや激励のお言葉をいただきましたこと重ねて御礼申し上げます。

北海道教区隊 隊長 奥村尚人